

令和6年度 いのちの授業 事例集（幼稚園こども園）【人間関係】

掲載数

6

地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 相模原市	年少	人間関係	「みんな大事だね」	「おへそのあなから」という絵本の読み聞かせを行った。お母さんのお腹の中にいる時、へその穴から外の世界を見たり、においを感じたり、音を聞いたりしていたという話。たくさんの人が、あなたの誕生を楽しみにしていたこと、愛されていること、大事な命なんだということに加え、「皆に大事にされているから、自分の事も大事にしてほしい」「お友達の命も大事にしてほしい」ことを伝えた。自分の事をぎゅっと抱きしめたり、友達とぎゅっと抱きしめ合って、「大事、大事だね」と伝えあった。 「ママのお腹の中はフワフワだったんだ」という声があがり、和やかな雰囲気となった。	絵本 おへそのあなから
2 横須賀市	幼複合	人間関係	防災	・消防士さんから「防災」についての4つの話（非常口の確認・火災報知器の使い方・煙からの避難・衣服に火がついた時の消火方法）を聞いた。その後、ポンプ車についての説明と防火服を着ての記念撮影を行った。 ※近隣の愛児園と合同で開催した。 ・「ぼうさいきょうしつ」のDVDを視聴後、「自分の身を守る」ことについて教師から話を聞いた。地震や火災、大雨の場合の避難の仕方についてパネルを使って理解を深めた。	
3 中	年中	人間関係	ぼかぼか言葉とちくちく言葉	入園して8カ月が経ち、友達と一緒に遊ぶことを楽しむようになってきた。関わりが増え、気持ちのすれ違いも見られるようになり、思うようにいかない場面もたくさん見受けられた。すると「バカって言われた」「こんなこと言われて嫌だった」と言いに来る子が増えてきた。クラスの集まりの時間に、嬉しくなるぼかぼか言葉と悲しくなるちくちく言葉があることを担任が話した。すると、子どもたちから「○○ちゃんが一緒に遊ぼうって言ってくれて嬉しかった」「どうしたの？って聞いてくれた」「ばかって言われた時、嫌だった」とこれまで自分がかけられた言葉について振り返っていた。また、皆のためにトイレのサンダルを揃えるなど、ぼかぼか行動も見られるようになり、4歳児なりになどのような言動をすると自分や友達はどんな気持ちになるのかを意識するようになってきた。	

4	中	年少	人間関係	ぽかぽかの花を 咲かせよう ～チクチク言葉 とぽかぽか言葉 ～	女兒を中心に、相手が傷つくような言葉“チクチク言葉”が増え、トラブルも増えた。その都度、発言した子らに話をするが、減ることがなく、クラスで“チクチク言葉”や“ぽかぽか言葉”について話した。言われた時の気持ちを出し合い、保育士も「注意する」のではなく、「“ぽかぽか言葉”を使っていたらすかさず褒める」ことへと意識を変えた。皆が理解した所で、今度は花卉の無いひまわり「ぽかぽかの花」の絵を部屋に貼り、聞かれた“ぽかぽか言葉”を帰りの会で振り返り、花卉に書いて、子ども自身が花に貼り付けることにした。花卉を貼る楽しさ、だんだんと咲いていく面白さで、“ぽかぽか言葉”は増え、自然と“チクチク言葉”も減った。満開になった花を、取組の様子と共に保護者に向けても掲示した。	
5	県西	年少	人間関係	「早く治ってね」	みんなでの集まりの場、病気で休んでいる子に対して「〇〇さんが早く良くなるといいね。」病気明けで出てきた子に対して「治ってよかったね。」の言葉かけを心がけている。くりかえしているうちに子ども達からも自然に言葉として出るようになってきた。ある日発熱して早退する子に「早く良くなってね。」と声をかけ門を出るまで見送った。子ども達は早退する子に向かって声をそろえて「早く良くなってね。」と叫んでいた。次の日早退した子は休んでしまった。登園時それを知った子ども達は門に向かって「早く治ってね。」と叫んでいた。大好きな友達を思う気持ちが育っていることを嬉しく思った。	
6	県西	年長	人間関係	ふわふわことば とちくちくことば	進級し気持ちも大きくなる時期、園児のなかの会話で乱暴な言葉が目立っていたため、絵本を用いて話をした。ふわふわことばは、人を元気づけ、言われた人は前を向くことができる言葉、ちくちくことばは人を傷つけ、言われた人は前に進めなくなってしまう言葉であると知った。幼児期の子ども達なりに「言葉を選ぶ」ことの大切さを感じることができた。	絵本：ふわふわとちくちく